

○北部農業士会には69人が所属しており、優れた農業経営を実践しながら、地域農業の振興及び農村青少年の育成が期待されていた。

○農業士は、自らの資質向上を図りながら、担い手育成活動等を行っているが、中には「農業士」としての役割や存在意義に疑念を持っている方もいる。

○そこで、これまでの組織活動の充実に加え、新たな取り組みを行うことで組織活性化を図ったところ、農業士としての役割発揮場面が創出され、活動意欲の向上が図られ、担い手育成に携わる農業士の増加に繋がった。

具体的な成果

1 農業士の役割発揮場面の創出と活動意欲の向上

■市町村との意見交換会において、担い手育成に関する課題の共有と情報交換を行い、行政への意見提言を行ったところ、担い手育成事業の効果的な活用に向けて、新規就農者の圃場巡回や農業セミナーを行う等の活動に繋がり、役割発揮の場面が拡大した。それに伴い、農業士としての自覚の形成や活動のモチベーション向上が図られた。

2 農業士の育成と資質向上

■農業士候補となる人材について市町村に提案、呼びかけを行ったところ、市町村で候補者がリスト化され、平成30年から10名の農業士が誕生し、新たなリーダーの育成が図られた。

■農業士の意向に沿った研修により、学んだ技術の実践と検証を行ったり、各自の自己研鑽に繋がっている。

3 幅広い農業士の活動

担い手育成



新規就農講座講師



農業士圃場視察

地域農業振興



市町村との意見交換会及び首長表敬訪問



地農指導事業意見交換会（喜瀬武原地区）

資質向上



県外先進農家視察



卸売市場視察



農業士新規認定者圃場視察

普及指導員の活動

1 組織活動の検討及び活動支援

■アンケート調査の結果、交流会における情報交換を望んでいること等が解った。

■役員会では、新に担い手の育成方法を議題とし、普及課主催の会議等に向けた意見集約を行い、提言へと繋がった。

■市町村との意見交換会を設定し、農業士会のPRを行うと共に、行政との繋がりができ、連携強化を図ることができた。

2 資質向上支援

■研修会や交流会は、コロナ禍で活動が制限されたため、場所やスケジュールに左右されないYOUTUBEやLINEを活用したオンライン研修や情報交換ができる環境を作った。

■認定証書授与式は、認定の意義、今後の活動に向けたモチベーションを高める場として位置づけた。

3 担い手育成活動支援

■講師活動として、普及課主催の新規就農講座等で自身のこれまでの経験を話してもらったと共に、質疑応答形式に重点を置いた。

■圃場視察は新規就農者が最も期待する場であり、農業士との会話や交流に重きを置いて実施した。

普及指導員だからできたこと

■農業士や担い手、関係機関の各々が抱えている課題を把握し、課題解決のための繋ぎ役として、コーディネートをすることができ、担い手支援等を行うことができた。

農業士による担い手育成と役割発揮に向けた活動支援

活動期間：平成30年度～継続中

1. 取組の背景

(1) 地域概要と農業の現状

北部農林水産振興センターが管轄する北部地域は、離島3村を含め12市町村から構成され、県全土の約36%を占めている。その内、山林が約70%を占めており、豊かな自然環境、自然景観が保全されている地域である。

農業分野においては、県農業産出額の約33%を担う県内最大の農業地域であり、農業振興上重要な地位を占めている。一方で、北部地域における令和元年の新規就農者数は43人となり、5年で50%以上減少している。また、青年農業者数も減少を続けており、60歳以上の農業従事者が全体の65%を占める等、高齢化と担い手不足が進行している。

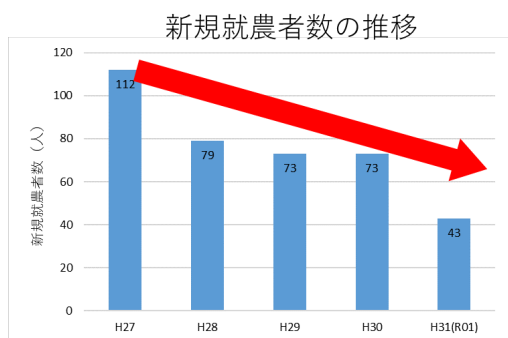


図1. 北部地域における過去5カ年の新規就農者数推移

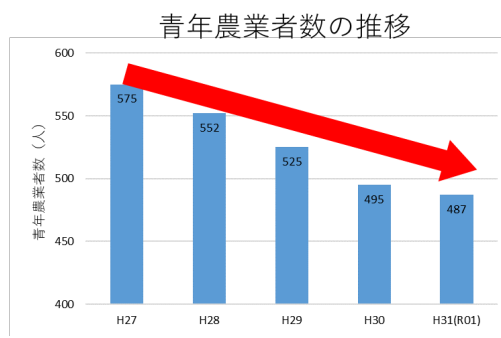


図2 北部地域における過去5カ年の青年農業者数推移

(2) 農業士の役割と組織活動

地域農業の維持・発展、農村活性化には、次世代を担う農業者を確保・育成していくことと、国内外の情勢変化や農業技術の進歩等の農業を取り巻く変化に対応できるよう、農業者の知識や技術を高め、農業経営力を向上させていくことが重要である。そこで、沖縄県では、優れた農業経営を実践しながら、地域農業の振興及び農村青少年の育成等に取り組んでいる農業者を「農業士」に認定し、関係機関との連携を図りながら、各地で担い手育成や地域農業振興に取り組んでいる。

北部農業士会は、北部地域の農業士認定者で構成される組織であり、現在69人が所属している。意見や情報等の交換を通して新規就農者および青年農業者への指導助言



図3. 北部農業士会顔写真一覧

や地域農業の振興方策について研鑽を積むとともに、会員相互の親睦を深めることを目的に活動を行っている。担い手育成に関しては、各種研修および視察の受入、新規就農講座の講師等の活動に加え、農業次世代人材投資事業経営開始型交付対象者の圃場巡回に同行し、新規就農者に対する助言を行っている。



図4. 農業士の活動内容

(3) 北部農業士会の課題と目標

北部農業士会では、会員の資質向上を図りながら担い手育成活動を行なっており、さまざまな場面でその役割を發揮している。しかし、自分の果たしている農業士としての役割や存在意義に疑問を抱えている方もおり、組織活動に対して複雑な想いを抱えている状況にあった。さらに、総会や資質向上研修時における参加者の固定化・参加率の低迷という形で会員の心境が表面化しており、組織全体のモチベーション低下が懸念されていた。地域の担い手育成や農業振興は、課題が多岐に及ぶため、農業士の存在、役割發揮が不可欠である。そのため、農業士の意欲低下や組織活動の低迷は、当地区の普及計画上の課題となっていた。

そこで、①農業士認定者全員が認定の自覚（活動意義を認識）を持ち、②組織活動を通して各々の資質を高め、③関係機関と連携した担い手育成を行い、④新たなリーダーが育成されている状態を組織支援の目標に置き、普及計画において「農業士としての役割發揮場面の創出」及び「新たな農業士の育成、確保」を課題設定し普及活動を行った。

2 活動内容

(1) 組織活動の検討及び開催支援

ア 組織活動および担い手育成に関するアンケート調査組織の実態把握と農業士が抱えている心情把握のため、会員の圃場巡回の際に組織活動及び担い手育成に関するアンケート調査を実施した。その結果、以下のことが明らかとなった。

- ・農業士は、交流会での情報交換を農業士のメリットとして捉えており、この取組みの充実を組織に求めている。
- ・組織活動への参加が遠のいている理由として、内容に関心がない、営農上の都合により忙しくて参加できないという理由が多くを占めている。
- ・特に畜産経営者にとっては、活動参加のメリットを感じられていない。
- ・農業士各々得意とする担い手育成活動が異なる。

この結果を、役員会にて報告し、会員の想いをできるだけ汲み取りながら今後の組織活動の検討を行うよう心がけた。

農業士アンケート

[本誌] に掲載した箇所の記事をお願いします！

Q1. あなたが就農した理由は何ですか？ 複数回答可

☐ 他産業より農業が好きだから	☐ 働けられたと思ったから
☐ 農作業が向いていると思ったから	☐ 農村で生活したいと思ったから
☐ 親族から経営を引き継ぐため	☐ 食の生産や安全性に興味があったから
☐ 家族と一緒に仕事ができるから	☐ 自分の農業で仕事を進められるから
☐ その他()	

Q2. 雇農を考えたことがありますか？

☐ 何度もある ☐ 数回ある ☐ ない

Q3. Q2について、雇農を考えた理由は何ですか。（お答えできる範囲でご記入をお願いします）

Q4. 就農前と後で農業へのイメージと現実にはギャップがありますか。当てはまる項目に○

☐ 特になし	☐ 経営関係	☐ 人間関係・コミュニケーション
☐ 栽培・農作業関係	☐ 労働時間	☐ その他()

Q5. 就農した際に最も不安だったことは何ですか？ 複数選択可

☐ 農地関係	☐ 栽培計画・収穫	☐ 農業経営・農作業の意欲の低下
☐ 栽培環境	☐ 栽培技術の未熟さ	☐ 近隣農家との人間関係
☐ 労働力不足	☐ 経営知識の不足	☐ 雇農・雇農
☐ 販路	☐ 農業と結び合える仲間が少ない	☐ その他()
☐ 資金繰り	☐ 相談できる先輩農業者の不在	☐ ない

Q6. 新規就農定着率が低迷している大きな要因は何だと思いますか。主な要因と考える項目を選択して下さい。

☐ 就農時の覚悟	☐ 栽培の基本より自己満足
☐ 就農時の栽培知識不足	☐ 農地の取得・賃借が難しい
☐ 人脈・コミュニケーション不足	☐ 栽培計画・収穫
☐ 中長期的なビジョンが薄い	☐ 品目選定ミス
☐ その他()	

図5. アンケート調査用紙

イ 役員会

これまで、役員会では、総会や研修会等の組織活動の計画及び開催方法の検討を主な議題としていたが、担い手育成の連携を強化するためには、農業士が各種制度や取り組みについて理解を深める必要があったことから、令和元年より、新たに担い手の育成方法を議題として取り入れた。また、役員からは、担い手育成について意見提言できる機会が欲しいとの要望があったため、北部地区農でグッジョブ推進会議の活用を提案し、意見集約と提言を行った。進行する際には、役員への問いかけをこまめに行い個々の考えを引き出すよう努めた。



写真 1. 役員会の様子

ウ 市町村との意見交換会

市町村の担い手担当者は、農政未経験の方が担当となる場合も多い。そのため、新たな農業士の確保や連携強化を図るためには、関係機関に対して継続して組織 PR を行う必要があった。また、農業士も行政との繋がりや意見交換の場を求めているため、離島訪問時などに不定期で開催していた農業士と市町村の意見交換会を定期的に取り組むこととし、活動計画に組み込んだ。そして、平成 30 年から令和 2 年にかけて北部農業士会の組織 PR と市町村との連携強化を目的に、6 町村で農業士制度の説明、組織活動の報告等の組織 PR と関係機関との連携をテーマとする意見交換会を行った。



写真 2. 市町村との意見交換会の様子

(2) 資質向上支援

農業士が与えられた役割を発揮するためには、研修会や農業士同士の意見交換を通じて、自身の資質を高める必要がある。そこで、農業士の資質向上として次の支援を行った。

ア 研修会

研修会は、役員等から意見を集め、農業士からの関心が高いテーマで企画を行った。中には研修会がマンネリ化しているという意見もあったことから、新たな刺激を与えるため、県外の先進農家視察を実施した。



写真 3. 研修の様子

去年は、新型コロナウイルス

の感染リスクを考慮し、集合研修の代わりとなる新たな取り組みが必要とされていたこと、営農活動を優先して研修参加を見送る人も多いということから、場所やスケジュールに左右されずに研修を受けられる方法の検討を行なった。そこで、研修の様子を動画撮影し、YOUTUBE や LINE を活用してオンラインで視聴できる環境を作った。



図 6. 動画一覧

イ 交流会

農業士は、交流会での情報交換を農業士のメリットの一つとして捉えており、組織に対してその充実を求めていることが明らかとなったため、例年行われていた新年会の取り組みを活用し、各種表彰やコンテスト等で受賞した方の祝賀を兼ねた祝賀新年会という形で活動計画に取り入れた。また、参加率が低迷していた畜産経営の農業士の活動意欲と資質向上を図ることを目的に畜産経営の農業士を集めて活動検討会を開催した。

このような交流会の場を利用して会員への情報発信を行っていたが、新型コロナウイルスの蔓延により、交流会等の取り組みを見送ることになってからは、新たな情報発信の場が必要とされたため、北部農業士会事務局で携帯電話を契約し、スマホやLINEを活用して情報交換の場を構築した。さらに、新たな取り組みとして会誌・北部農業士会便りを発行し、活動報告及び情報提供を行なった。



図7. 北部農業士会便り

ウ 認定証書等授与式

農業士の認定式は、認定意義の確認、今後の活動に向けてモチベーションを高める場となっており、農業士にとっては認定後の活動意欲をも左右する重要なイベントとなっている。しかし、台風や社会情勢等事情により認定式自体が中止となることや都合により式への出席が叶わないということがあった。そこで、北部地区では認定証書等授与式を開催し、認定式と同様の式典を行うことで、知事認定の重要性を伝える場面作りを行った。



写真4. 認定証書等授与式の様子

(3) 担い手育成活動支援

農業士は、各種研修や視察の受入れ、交流会への参加、新規就農講座の講師等の活動に加え、農業次世代人材投資事業のサポートチームメンバーとして交付対象者の圃場巡回に同行し、助言を行っている。新規就農者や青年農業者にとって、同業者である農業士の助言は説得力があり、また、農業士の優良事例は地域への波及効果が期待されるため、効果的な連携を図る必要がある。そこで、普及計画では、主に次の担い手育成活動において支援を行った。

ア 講師活動

農業士は時に講師として人前に立ち、自身の農業経験を踏まえたアドバイスを行っているが、このような講師活動は心理的な部分で大きな負担となっている。この負担を軽減するため、話す内容や構成を農業士と一緒に考え、伝えたいことがうまく伝えられるよう講師活動の支援を行った。また、新規就農講座では、一部を質疑応答形式とすることで、心理的負担の



写真5. 新規就農講座の様子

軽減を図った。

イ 圃場視察

新規就農者へのアンケート調査では、農業士に期待する支援として、農業士圃場視察を最も望んでおり、また、農業士も同様に圃場視察の受入が最も役割を発揮できる取組みであると考えていることが分かった。そこで、新たな取組みとして、新規就農講座の現地編を設けた。現地視察は、農業士との会話や交流にも重きを置き、少人数のグループに分け、栽培期間中の生育初期と後期それぞれで視察を行った。



写真6. 新規就農講座現地編の様子

3 具体的な成果

(1) 農業士の役割発揮場面の創出と活動意欲の向上

役員会では、担い手育成に関するテーマを設けてからは、より活発に意見交換が行われるようになった。また、これまで発言が控えめであった役員からも積極的な発言が聞けるようになり、担い手育成に対する意識が高まっている。



写真7. 大宜味村の農業セミナー

このような中で開催した市町村との意見交換会では、新規就農者の育成、事業交付対象者の評価方法、各地域の事例紹介等、担い手育成に関する課題の共有と情報交換が行われ、行政への意見提言という役割発揮場面が創出された。この取り組みをきっかけに、担い手育成事業の効果的な活用に向けて、市町村担当者と意見交換を行う等の行動も見られるようになり、農業士としての自覚が形成と活動のモチベーション向上が図られている。また、新規就農者圃場巡回や農業セミナー等、各々の市町村で農業士と連携した新たな取り組みが行われるようになっており、役割発揮の場面はますます拡大している。

新規就農講座現地編では、参加者が質問しやすい雰囲気を作るため、品目毎に少人数制での視察を実施したことで、質疑応答が活発に行われており、効果的な支援に繋がった。視察後のアンケートでも満足度の高い取り組みとなっており、新規就農者の育成に寄与している。

さらに、参加が遠のいていた農業士もこれらの活動に加わるようになり、担い手育成に携わる農業士の増加にも繋がっている。

農業士圃場視察評価アンケート (%)

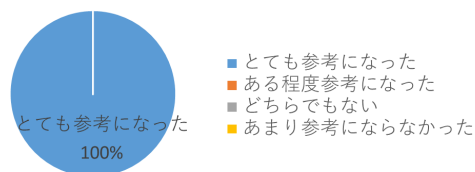


図8. 農業士圃場視察アンケート結果

評価理由

- ・病害虫被害の様子を実際に確認できた
- ・受粉方法などを見て学べることが多かった
- ・経過を追って確認できたのでイメージしやすい



「事例を実際に見ることが良かった」という理由が多い

図9. 評価理由

(2) 農業士の育成と資質向上

農業士と市町村との意見交換会などの機会を活用し、農業士候補となる人材の確保について呼びかけを続けたところ、市町村で候補者のリスト化や、農業士が地域行政と連携して次なる人材の確保、育成に取り組むようになった。その結果、平成 30 年から 3 年間で 10 人の農業士が誕生し、新たなリーダーの育成が図られている。また、その内の 3 人が研修生を受け入れ、1 人が受入準備を進めており、新たに認定された農業士の活躍が見られる。さらに、農業士から指導を受けていた新規就農者が、現在、青年農業士候補となっており、新たな農業士の誕生も期待されている。

各種研修では、農業士の関心の高いテーマを取り入れたことで、研修後に学んだ技術の実践と検証を行うといった行動や交流会などの場で知り得た知見の情報交換が行われる様子が伺え、自己研鑽が図られている。

4. 農家等からの評価・コメント

(農業士 G 氏)

地域、担い手育成、農業士会それぞれに多くの課題がある中で、農業士の役割を明確に示し、活動が停滞していた農業士も巻き込みながら関係機関へと繋ぐ取り組みを行ってくれた。このような取り組みにより、農業士の意欲も高まり、関係機関に対しても「農業士」の役割を認知してもらえた。私達も自己研鑽しながら地域のためにできることは協力したいと思うので、今後も連携を高めて担い手育成支援、組織活動支援を行ってほしい。

(農業士 H 氏)

時代や社会情勢の変化に応じて、LINE、YouTube、web アンケートの取り組み等、さまざまなツールを活用して、常にできることを模索し農業士の活動支援、担い手育成支援を行っていた。このように積極的に働きかけをして、組織に関わっている姿を見ると、私達も動かないといけないと自然と活力が生まれる。私達もこの気持ちを維持しながら今後も地域活性化に寄与していきたい。

(農業士 A 氏)

組織内で品目が少数派であったため、活動に参加しづらい状況にあったが、さまざまな取り組みを提案し発足してくれたおかげで、前向きに参加できるようになった。また、担い手育成に対する気持ちも変わり、今では積極的に新規就農者支援を行っている。農業士の意欲は担い手育成支援へと繋がっていくので、今後ともこのように農業士が元気になるような組織改善を期待している。

(新規就農者 T 氏)

新規就農して、何が正解でどうしたらいいのかも分からず、いろんな疑問、漠然とした不安を抱える中で、普及課が指導農業士との接点を作ってくれた。そのおかげで、さまざまな場面で農業士から助言をもらえたり、実際に圃場の様子を見させてもらえて、すごく参考になった。このような体験を無駄にせず、今後も栽培技術や経営力を高めていきたい。

5. 普及指導員のコメント（農業改良普及課 主任 仲宗根琢洋）

北部農業士会は、北部地域の農業振興及び農村の活性化を図るため、県知事から認定を受け、資質の向上を図りながら担い手育成活動等を行っている。しかし、中には、自分の果たしている「農業士」としての役割や存在意義に疑問を持っている方もおり、組織活動の停滞に繋がっていた。地域の課題は多岐に及ぶため、農業士の存在、役割発揮が不可欠である。そのため、農業士組織を活性化させ、農業士としての自覚とその資質を高める必要があった。そこで、普及課では、これまでの組織活動の充実に加え、新たな取り組みを行うことで組織活性化を図った。その結果、農業士としての役割発揮場面が創出され、活動意欲の向上が図られた。また、参加が遠のいていた農業士の活動再開の動きも確認されており、担い手育成に携わる農業士の増加にも繋がった。

このような農業士の活躍により、新規就農講座、視察及び研修の充実が図られ、青年農業者にも影響を与え、担い手育成に大きな力を発揮しており、今後も農業士の役割が発揮できるよう支援を継続していく。

6. 現状・今後の展開等

地域農業の振興のために、さまざまな方法で農業士組織の支援を行ない「農業士としての役割発揮場面の創出」及び「新たな農業士の育成、確保」を図ってきたが、担い手の確保や新規就農者の早期定着などといった普及課として抱えている担い手の課題を解消するためには、農業士への継続的な支援と活動の積み重ねが必要である。

そのため、まずは、目標と課題を共有し、役員会、資質向上研修、担い手育成活動の取り組みを続けていく。そして、参加が遠のいている農業士に対しては、圃場巡回を行うとともに、引き続き会誌等で情報提供を行い、農業士としての役割発揮に向けた意識啓発を行っていく。

農業士の育成については、近年、女性農業士認定者数が減少しており、女性農業士の育成が急務となっているため、関係機関と連携し、農業士の育成に取り組む。また、認定式は、認定意義の最も認識できる場となっているため、やむなく県全体での開催が中止となった際は、地区で証書授与式を行い、これまでの認定式から途切れないよう意識啓発していく。

昨年からは、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、農業士が最も期待していた交流会や集合研修の開催が見送りとなっており、意欲低下が懸念されている。そのため、これに代わる取組みについて、役員会で検討を行っている。研修に関しては、いつでもオンラインで動画を見られる環境を整え、スケジュール調整ができず参加できないという問題の解消に取り組む。

そして、祝賀新年会等の交流会、それに代わる取り組み、各種研修、担い手育成活動の充実により農業士の意欲を高めるとともに、その役割を最大限に発揮することで、より多くの担い手育成が図れるよう、関係機関と連携しながら組織支援に取り組んでいきたい。